

## 第5章 検討経過

### 1 市民動物園会議委員

平成30年（2018年）3月31日現在

氏名	所属・役職
◎金子 正美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
○高井 哲彦	北海道大学大学院 経済学研究科 准教授
後山 直久	株式会社テレビ北海道 事業部部長
武田 美保	公募委員
土田 史郎	一般社団法人札幌観光協会 事務局長
中本 真子	公募委員
森田 久芳	公募委員
八木 由起子	株式会社 えんれいしゃ 出版事業局 出版部 北海道生活編集長
矢野 信一	円山西町町内会会長
吉中 厚裕	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 准教授

(◎：委員長、○：副委員長、役職付を除き五十音順・敬称略)

※市民動物園会議：札幌市附属機関設置条例第2条に定める附属機関

### 2 「ビジョン2050」検討部会委員

平成30年（2018年）3月31日現在

氏名	所属・役職
◎吉中 厚裕	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 准教授
○福井 大祐	岩手大学 農学部 共同獣医学科 准教授
佐藤 香	前市民動物園会議委員・手稲区おもちゃ図書館ボランティア
高野 克也	札幌まるやま自然学校代表
福津 京子	札幌人図鑑 オフィス・福津代表
水落 隆志	札幌商工会議所 常務理事・事務局長

(◎：委員長、○：副委員長、役職付を除き五十音順・敬称略)

※「ビジョン2050」検討部会：「ビジョン2050」を検討するために設置した市民動物園会議の部会

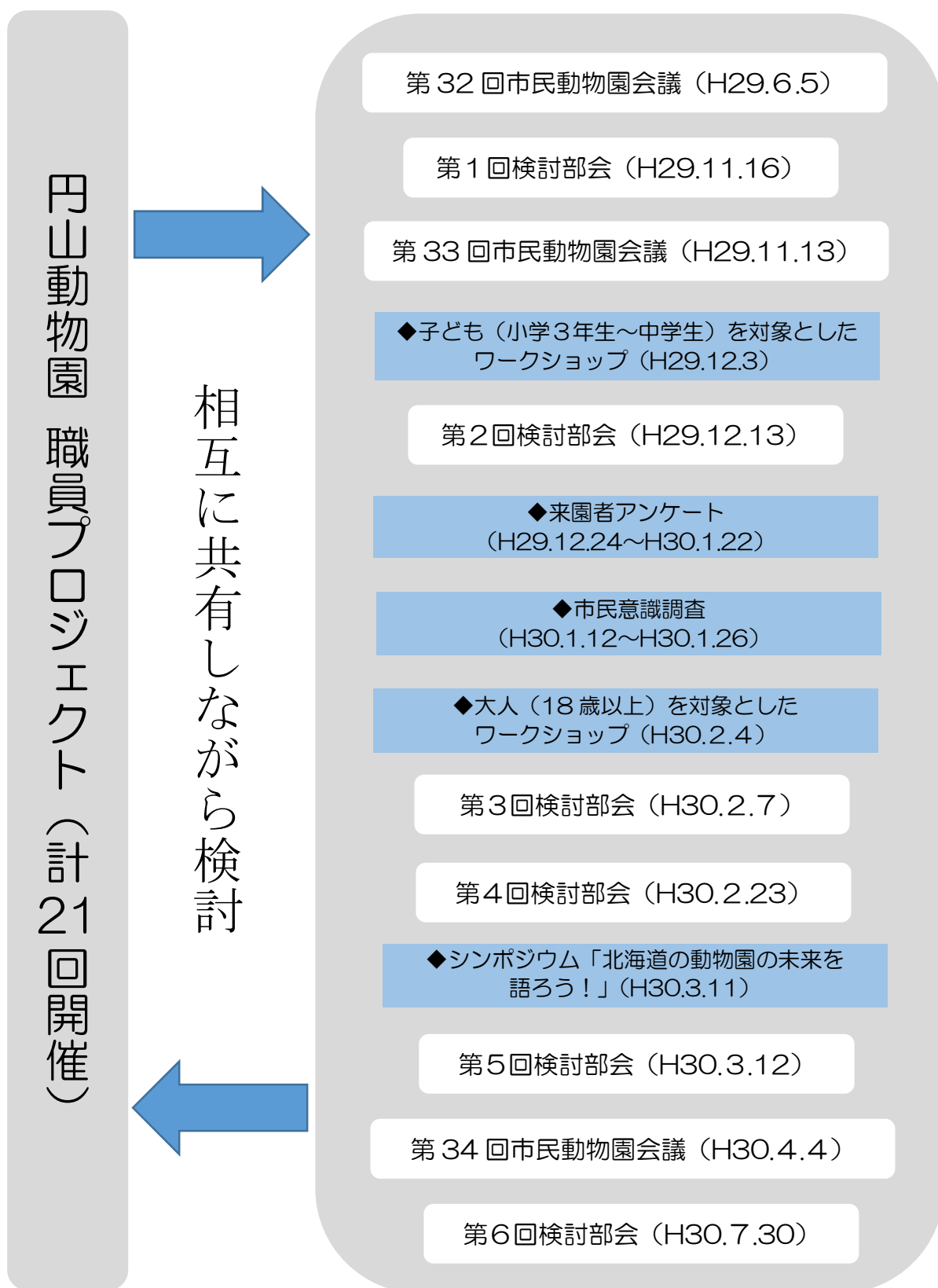
オブザーバー

平成30年（2018年）3月31日現在

氏名	所属・役職
金子 正美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
小菅 正夫	札幌市環境局参与

(五十音順・敬称略)

### 3 会議等の開催経過



## 4 市民意見の反映に関わる取組

### (1) 子ども（小学3年生～中学生）を対象としたワークショップ

日 時	平成 29 年 12 月 3 日（日） 10：00～15：00
場 所	円山動物園 動物園プラザ
参加者数	16 名
内 容	○園内のほか、は虫類・両生類館のセンターラボやザリガニ小屋など普段立ち入ることができない施設を見学。 ○これからの円山動物園について意見交換。
主な意見	○希少な動物を繁殖させることは大事だと思う。 ○密輸された動物を引き取って飼育していることを知ることができた。 ○自分もニホンザリガニの調査をしてみたい。 ○もっと野生に近い状態で見たい。 ○募金活動でお金をためてはどうか。 ○展示動物を見て、生息地まで行ってみたいくなるようにしてほしい。 ○無料の送迎バスを作ってはどうか。

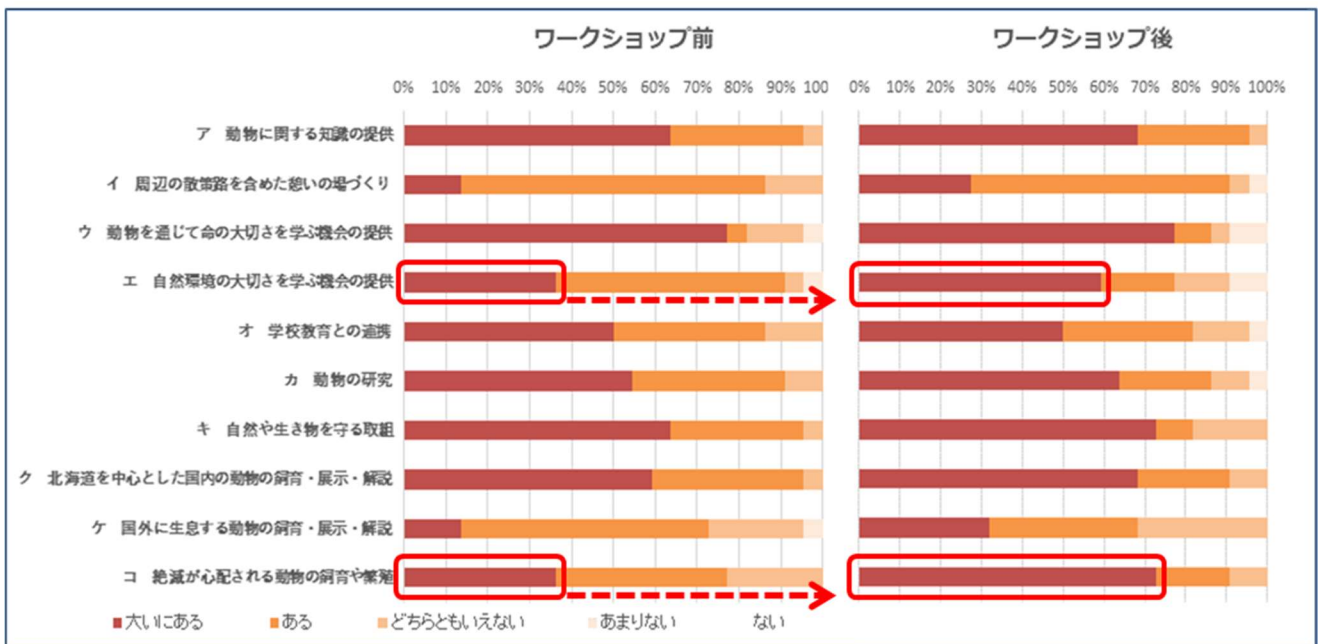


## (2) 大人（18歳以上）を対象としたワークショップ

日 時	平成30年2月4日（日）13:00～16:30
場 所	円山動物園 動物園プラザ
参加者数	22名（住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2千人に調査票を郵送することにより募集）
内 容	○園内のほか、は虫類・両生類館のセンターラボや猛禽類野生復帰施設など普段立ち入ることができない施設を見学。 ○円山動物園の社会的な役割について意見交換。
主な意見	○動物園の取組が多種多様で驚いた。 ○外部との連携がもっと必要ではないか。 ○動物園が研究に力を入れているのが意外であった。 ○動物園の取組を周知することに、もっと工夫を凝らす必要がある。 ○動物園は環境問題を考える場として重要である。 ○ワークショップのような市民参加の機会はとても良い。

### ○アンケート（関係項目抜粋）

市民ワークショップを行う前（申し込み時）に提出してもらった回答と、ワークショップ後の回答を比較したところ、いくつかの変化が見られました。たとえば、「円山動物園にどのような社会的役割があると思いますか」という設問に対し、「自然環境の大切さを学ぶ機会の提供」や「絶滅が心配される動物の飼育や繁殖」という項目について、「大いにある」と回答した人が増加しました。



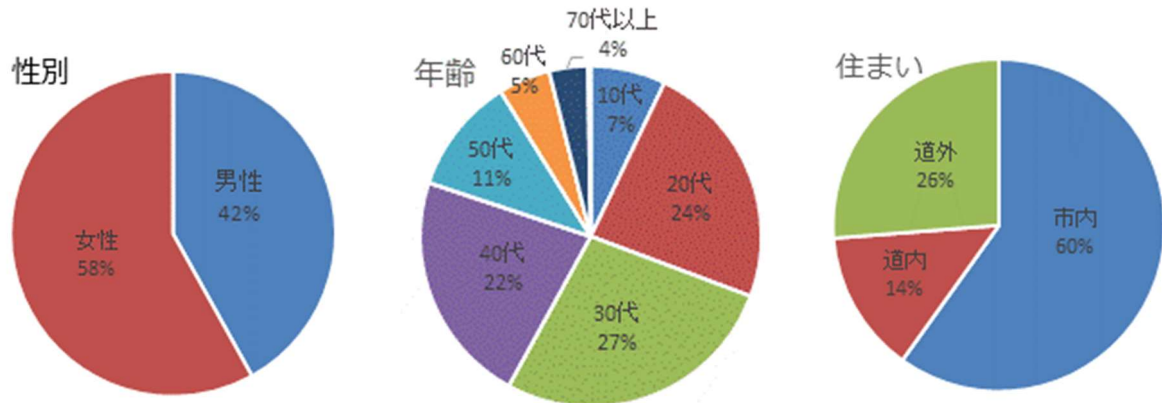
### (3) シンポジウム「北海道の動物園の未来を語ろう！」

日 時	平成 30 年 3 月 11 日 (日) 13:00~16:00
場 所	円山動物園 科学館ホール
参加者数	80 名程度
内 容	<p>○神奈川大学法学部 准教授諸坂佐利氏による基調講演 「日本の動物園の課題、そして今後の展望」</p> <p>○パネルディスカッション 「北海道の動物園・水族館の未来を語る」</p> <p>・パネリスト 伊勢 伸哉 (日本動物園水族館協会副会長、おたる水族館 館長) 柚原 和敏 (おびひろ動物園 園長) 古賀 公也 (釧路市動物園 園長) 加藤 修 (円山動物園 園長)</p> <p>・アドバイザー 諸坂 佐利 (神奈川大学法学部准教授) 小菅 正夫 (札幌市環境局参与)</p>
参加者からの 主な意見	<p>○動物を見て、ただ「かわいい」と思うだけでなく、種の保存も考えたい。</p> <p>○動物園がただのレジャー施設ではないことが周知されていないのが問題である。</p> <p>○動物栄養士、心理士は必要だと思う。</p> <p>○スタッフが専門知識を得るための研修、研鑽を積み重ねていく必要がある。</p> <p>○思い切って動物の種類を減らし、北海道の野生動物の素晴らしさを伝えることも大事。</p> <p>○動物園の関係者だけでなく、実際に自然保護をやっている人たちに話を聞く方が良い。</p> <p>○動物園に関する法整備は動物だけでなく、働く人や来園者のためにも必要だと思った。</p> <p>○集客より動物の命重視でやって欲しい。</p> <p>○もっと屋外での保全に力を入れて欲しい。普及啓発が良い。</p> <p>○シンポジウムや講演会等をこれからも増やしてほしい。</p>

#### (4) 来園者アンケート

実施期間	平成 29 年 12 月 24 日～平成 30 年 1 月 22 日のうち計 10 日間
場 所	正門・西門
回答者数	416 人

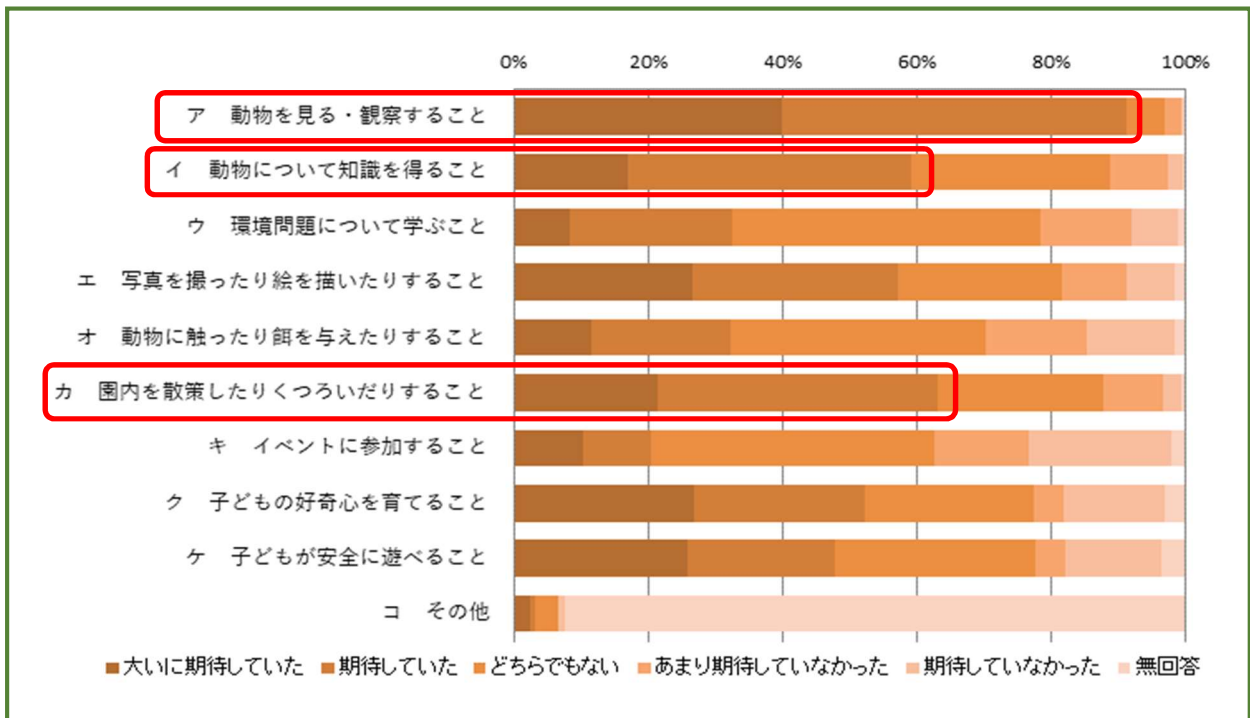
#### ア 回答者の内訳



#### イ アンケート結果（関係項目抜粋）

【問】あなたは、円山動物園にどのようなことを期待して来ましたか。

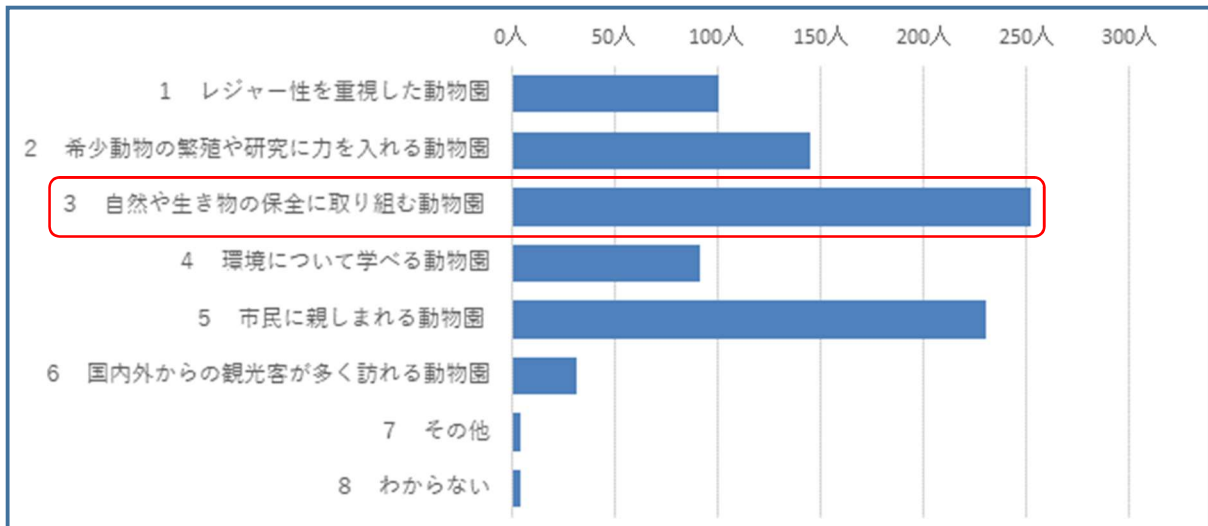
「大いに期待していた」と「期待していた」をあわせた割合は、「動物を見る・観察すること」がもっとも高かったのに続き、「動物について知識を得ること」や「園内を散策したりくつろいだりすること」といった項目で高くなりました。





【問】円山動物園がどのような動物園であってほしいですか。（優先順位が高いと思うものに3つまで回答）

「自然や生き物の保全に取り組む動物園」という回答が、円山動物園に望む姿として、もっとも多くの回答を得ました。



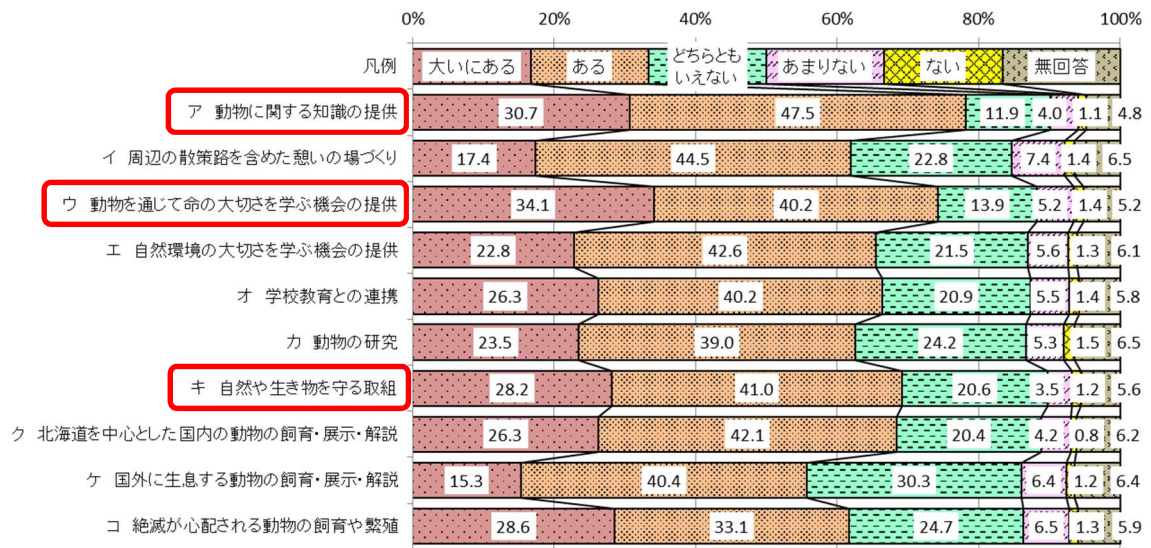
## (5) 市民意識調査

実施期間	平成 30 年 1 月 12 日～1 月 26 日
調査方法	住民基本台帳から「等間隔無作為抽出」により抽出した札幌市内の満 18 歳以上の男女個人 5,000 人に対して調査票を郵送し、返信用封筒で回収。
回収数	2,602

### ア アンケート結果（関係項目抜粋）

【問】あなたは、円山動物園にどのような社会的役割があると思いますか。また、円山動物園がその役割への期待に応えていると思いますか。それぞれの項目について1つずつ○をつけてください。

「大いにある」と「ある」をあわせた割合は、「動物に関する知識の提供」が 78.2%、「動物を通じて命の大切さを学ぶ機会の提供」が 74.3%、「自然や生き物を守る取組」が 69.2%となりました。



【問】あなたは、円山動物園がどのような動物園であってほしいですか。優先順位が高いと思うものに3つまで○をつけてください。

「市民に親しまれる動物園」が75.8%、次いで「自然や生き物の保全に取り組む動物園」64.0%となりました。

